



国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION

環境報告書

2021

目次

● 学長挨拶	・・・・・・・・ 1
● 京都教育大学環境方針	・・・・・・・・ 2
● 大学概要	・・・・ 3～6
● 環境マネジメント組織	・・・・・・・・ 7
● 環境パフォーマンス	
・ マテリアルバランス	・・・・・・・・ 8
・ 省エネルギー・温暖化防止	・・・・・・・・ 9
・ 廃棄物	・・・・・・・・ 10
・ 事務用紙類の使用量	・・・・・・・・ 11
・ PCB廃棄物	・・・・・・・・ 11
・ グリーン購入・調達	・・・・・・・・ 11
・ 環境配慮契約の状況	・・・・・・・・ 12
・ 省エネルギー対策の 実現可能な具体的計画	・・・・・・・・ 12

地球温暖化による気候変動が加速度的に進んでいます。二酸化炭素の排出量が増え続け、2010年代の平均気温は、産業革命以前の1850年～1900年より1.1度上昇し、観測史上最も暑い10年になりました。長期的な気温上昇で海水の蒸発がさかんになり、大気中の水蒸気の増加によって、度重なる集中豪雨が発生し、台風の大型化も起きています。物質的な豊かさを求める経済重視の価値観が、地球温暖化の原因であることは、今や多くの人が認めるところです。

2021年10月末、英国グラスゴーで開催したCOP26は「グラスゴー気候合意（Glasgow Climate Pact）」をとりまとめ、産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えることを正式目標としました。目標達成のためには、2050年までに世界の二酸化炭素排出量を実質ゼロにすること、言い換えれば「カーボンニュートラル」の実現が必要になります。日本ではCOP26の開幕直前、菅総理が所信表明演説のなかで、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言されました。

「カーボンニュートラル」は、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。そのためには、先ず、さまざまな手段によって、二酸化炭素排出量を可能な限り削減しなければなりません。本学が講じてきた方策とその成果については、この報告書をご一読いただくことで、概要を知っていただけるかと存じます。

一方で、二酸化炭素の吸収量を高めることも求められています。本学はゆたかな緑を有しており、幾らかは二酸化炭素を吸収できていると考えています。

京都・伏見にある本学のキャンパスは、国立大学のなかでもとりわけ緑の占める率が高いと言われています。京都の街なかに鬱蒼たる自然の森をつくりたい、あるいは「鎮守の森」を出現させたい、というコンセプトで、なるだけ枝を伐らず、何十年とかけて大きく木々を育ててきました。小雨なら「樹の下をつたって行けば濡れない」と学生が言うほどです。令和二年の夏、コロナ禍による緊急事態宣言が明け、登校してきた学生たちが、むくさかに繁茂した万緑に圧倒されて、「わーっ」と声を上げたのは記憶に新しいところです。よく見慣れた風景のはずですが、久しぶりに登校して、緑の猛々しいまでの勢いと艶やかさに、新鮮な驚きを感じたのでしょうか。

本学がどんなに懸命に「森」を育てても、それとは比べようもない広大な森林が毎年、地球から失われています。本学の緑による二酸化炭素吸収量など、タカが知れていると言ってもよいでしょう。それでも私たちは、この緑をたいせつにしていこう、と心を決めています。そのことで地球環境を保護する大切さを伝えよう、と考えています。

京都教育大学は「人を育てる知の創造と実践を担う大学」として、時代の要請に応じた学校教育のありようを追究している教員養成大学です。理学部、工学部がある大学のように、環境の改善に寄与する技術を開発することはできません。ただし、教員となる学生たちに、自然環境の素晴らしさとそれを護ることの意義を伝えることはできます。そして、その学生たちを通して、将来彼らが教えるであろう子どもたちのあいだに、自然を愛する心を育むことも。

たとえば、理科を学ぶ学生たちは、セイヨウタンポポとニホンタンポポの学内分布を調査し、美術の学生たちは一本の樹を選んで細密な鉛筆画を仕上げます。春には爛漫たる桜を撮影する人たちが散策し、秋にはドングリを拾いに幼稚園児が訪れます。環境を大事にする心ばえを広く浸透させるには、たとえ緩慢で間接的なやり方であっても、こうしたことが結局は大きな力をもつと、私たちは考えています。

京都教育大学学長

太田 耕人



I 基本理念

国立大学法人京都教育大学（以下「本学」という。）は、現代社会の課題を理解し、それらに対応し得る力量を備えた教員を養成する大学として、地球温暖化防止に向けた教育・啓発活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めます。

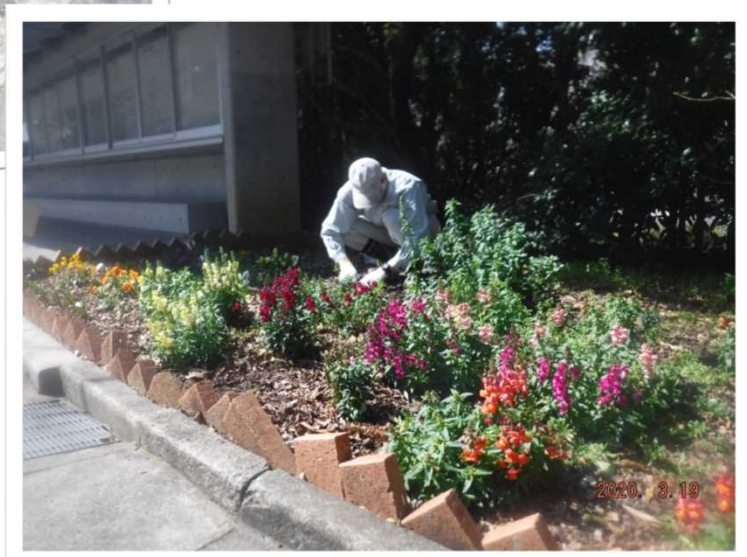
II 基本方針

本学の基本理念に基づき、すべての構成員が協力し、以下の活動を積極的に推進します。

1. 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき策定された「国立大学法人京都教育大学における温室効果ガス排出抑制のための実施計画」に掲げられた取組を積極的に推進することにより、本学におけるエネルギー消費や廃棄物等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 環境関連法令等を遵守し、さらに環境負荷低減のための目標を設定し、その実現に努め、大学の社会的責任を果たします。
3. この環境方針はもとより、環境パフォーマンスに関する情報は分かりやすく取りまとめ、広く公開します。



キャンパス内緑化への取り組み



教育の総合大学

「教育の総合大学」をキャッチフレーズに、本学は組織や体制を整備し、ほぼ全校種・全教科の教員免許に対応した教育学部・学校教員養成課程、特別支援教育特別専攻科を有しています。令和4年度には従前の二つの大学院——教育学研究科、連合教職実践研究科——を統合し、新たな連合教職実践研究科（京都連合教職大学院）を発足させる予定です。

附属機関としては、教育創生リージョナルセンター機構（教職キャリア高度化センターと総合教育臨床センターで構成）、環境教育実践センターを設置しています。なかでも、教職キャリア高度化センターは学生教育、現職教員研修の両面において、京都府・京都市教育委員会と連携して教員養成の高度化を推進する、本学独自の機関になっています。また、6つの附属学校園——附属幼稚園、附属桃山小学校、附属桃山中学校、附属京都小中学校（義務教育学校）、附属高等学校、附属特別支援学校——も擁しています。附属学校園は教育の実践研究の場であり、大学と協働し、新しい教育のあり方を開発することを使命としています。本学の学生は全員、いずれかの附属学校園で教育実習を行うことになっています。

学生数

A 教育学部

(R3.5.1)

課程	入学定員	第1年次			第2年次			第3年次			第4年次			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学校教育教員養成課程	300	134	188	322	135	187	322	137	189	326	166	195	361	572	759	1,331

B 大学院教育学研究科（修士課程）

(R3.5.1)

専攻	専修	入学定員	第1年次			第2年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
学校教育専攻	学校教育専修	17	6	5	11	4	(1)	(1)	10	16	26
教科教育専攻	障害児教育専修	5	2	2	4	1	3	4	3	5	8
	国語教育専修	35	1	3	4	0	1	1	1	4	5
	社会科教育専修		1	1	2	2	0	2	3	1	4
	数学教育専修		(1)		(1)			(1)		(1)	(1)
	理科教育専修		1	0	1	2	0	2	3	0	3
	音楽教育専修		2	1	3	11	3	14	13	4	17
	美術教育専修		1	1	2	0	4	4	1	5	6
	保健体育専修			(1)	(1)				(1)	(1)	(1)
	技術教育専修		0	2	2	4	1	5	4	3	7
	家政教育専修		2	1	3	3	1	4	5	2	7
英語教育専修	3		1	4	2	0	2	5	1	6	
合計		57	(1)	3	4	1	3	4	2	6	8
			(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)
			20	21	41	30	27	57	50	48	98

注：（ ）は、外数で外国人留学生を示す。

C 大学院連合教職実践研究科（専門職学位課程）

(R3.5.1)

専攻	コース	入学定員	第1年次			第2年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
教職実践専攻	授業力高度化コース	60	12	13	25	13	5	18	25	18	43
	生徒指導力高度化コース		12	8	20	16	3	19	28	11	39
	学校経営力高度化コース		9	0	9	2	0	2	11	0	11
	合計		33	21	54	31	8	39	64	29	93

注：学校経営力高度化コースについては大半が1年で修了する短期履修制度を利用。

D 特別支援教育特別専攻科

(R3.5.1)

専攻	入学定員	在籍者		
		男	女	計
特別支援教育専攻	35	6	14	20

E 研究生・科目等履修生等

(R3.5.1)

区分	在籍者		
	男	女	計
研究生	3 (1)	2 (1)	5 (2)
科目等履修生	7	7	14
特別聴講学生	13 (2)	8 (2)	21 (4)
特別研究学生	0	0	0
合計	23 (3)	17 (3)	40 (6)

注：人数は教育学部、大学院教育学研究科、大学院連合教職実践研究科の合算である。
注：（ ）は、外数で外国人留学生を示す。

附属幼稚園

学級数	3歳児	4歳児	5歳児	計
5	20	48	47	115

附属高等学校

区 分	学級数	1学年	2学年	3学年	計
全日制 普通科	12	143	160	157	460

附属桃山小学校

区 分	学級数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
普通学級	12	68	70	70	71	72	70	421

附属桃山中学校

区 分	学級数	1学年	2学年	3学年	計
一般学級	9	120	119	117	356
帰国生徒教育学級	3	11	14	15	40
計	12	131	133	132	396

附属特別支援学校

区 分	学級数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
小学部	3*	1	3	3	3	3	3	16
中学部	3	7	8	6	-	-	-	21
高等部	3	10	9	9	-	-	-	28
計	9	-	-	-	-	-	-	65

附属京都小中学校

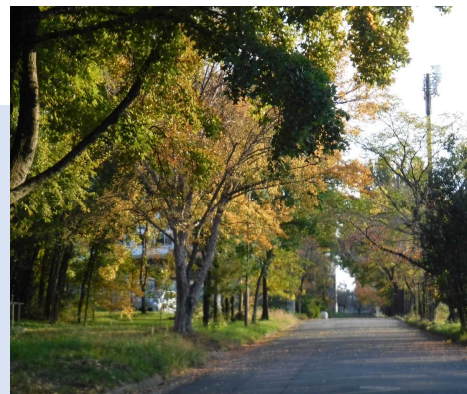
区 分	学級数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	7学年	8学年	9学年	計
通常学級	27	96	96	94	95	95	94	92	93	88	843
特別支援学級	6*	2	3	3	2	2	2	6	6	6	32
計	33	98	99	97	97	97	96	98	99	94	875

教職員数

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	事務職員等	合 計
事 務 局						<4> 86	<4> 86
内 部 監 査 室						<1> 1	<1> 1
教 育 学 部	<4> 47	<1> 33	7				<5> 87
大学院連合教職実践研究科	[13] [2] 4	[9] 3	[1] 1				[23] [2] 8
教職キャリア高度化センター	<3> 6	2					<3> 8
総合教育臨床センター	1						1
環境教育実践センター	1					1	2
保健管理センター	1						1
合 計	<4> [13] [2] <3> 60	<1> [9] 38	[1] 8			<5> 88	<5> [5] [23] [2] <3> 194

区 分	副校(園)長	主幹教諭	教 諭	助教諭	養護教諭	栄養教諭	栄養士・調理士	合 計
附 属 幼 稚 園			<<2>>					<<2>>
附 属 桃 山 小 学 校	1		3 <<2>> <2>					5 <<2>> <3>
附 属 桃 山 中 学 校	1	1	15 <2> <3>					20 <4> <2>
附 属 京 都 小 中 学 校	1	1	20 <2> <8>					24 <2> <8>
附 属 京 都 小 中 学 校	2	2	<1> 42 <3>				<1>	<2> 50 <4>
附 属 高 等 学 校	1	1	<4> 30 <4>					<4> 34 <4>
附 属 特 別 支 援 学 校	1		<1> 24 <4>					<1> 27 <4>
合 計	7	5	<<22>> <10> 134		<<2>> <1> 9	2	<1> 3	<<24>> <12> 160

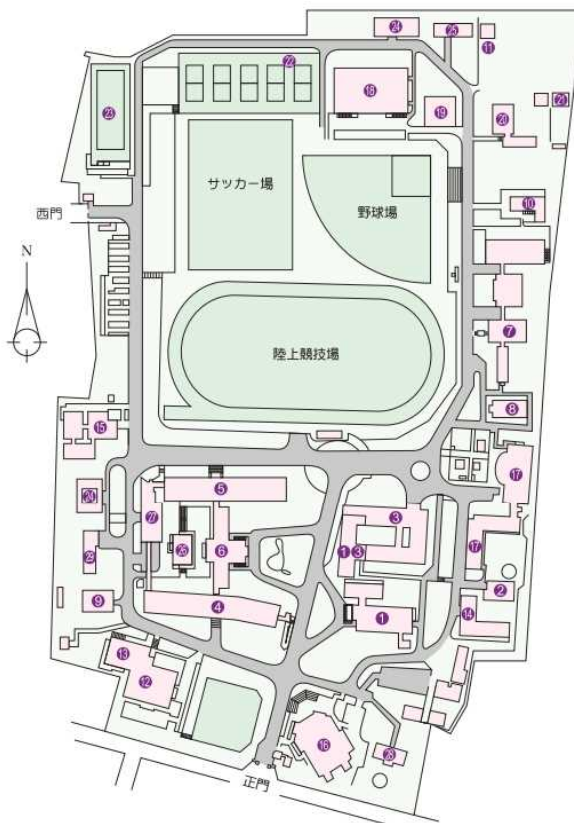
京都教育大学各キャンパス

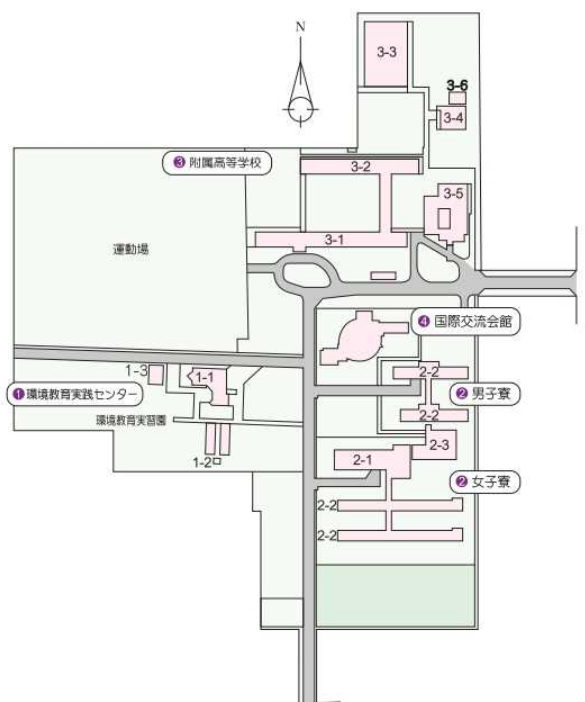


- ① 藤森学舎
- ② 第二学舎地区
- ③ 附属京都小中学校
- ④ 桃山地区附属学校
- ⑤ 附属特別支援学校

藤森学舎

- ① 本部棟
- ② 保健管理センター
- ③ 附属図書館
- ④ 1号館 (A棟)
- ⑤ 1号館 (B棟)
- ⑥ 1号館 (C棟)
- ⑦ 2号館 (D棟)
- ⑧ 音楽演奏室
- ⑨ 理科共通実験棟
- ⑩ 美術基礎実習棟 (E棟)
- ⑪ 陶芸実習室
- ⑫ 共通講義棟 (F棟)
- ⑬ 総合教育臨床センター (特別支援教育臨床実践拠点)
- ⑭ 共通実習棟
- ⑮ 教職キャリア高度化センター・総合教育臨床センター (教育臨床心理実践拠点)
- ⑯ 講堂
- ⑰ 大学会館
- ⑱ 体育館
- ⑲ 武道場
- ⑳ トレーニングセンター
- ㉑ 弓道湯
- ㉒ テニスコート
- ㉓ プール
- ㉔ 課外活動施設
- ㉕ 合宿所
- ㉖ 情報処理センター
- ㉗ 大学院棟 (G棟)
- ㉘ 教育資料館
- ㉙ 多目的共用施設 (アクティブ・ラーニング棟)





第二学舎地区

- ① 環境教育実践センター
 - 1-1 管理棟
 - 1-2 温室
 - 1-3 有機物リサイクルシステム実験実習棟
- ② 学生寮
 - 2-1 管理室、食堂
 - 2-2 寮室
 - 2-3 食堂
- ③ 附属高等学校
 - 3-1 本館
 - 3-2 特別教室棟
 - 3-3 体育館
 - 3-4 格技室
 - 3-5 メディアセンター
 - 3-6 トレーニングルーム
- ④ 国際交流会館

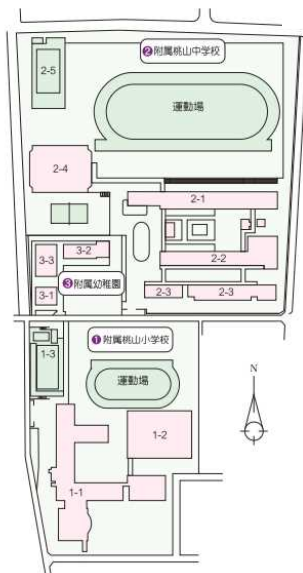
附属京都小中学校

- ① 附属京都小中学校 初等部
 - 1-1 本館
 - 1-2 多目的図書館棟
 - 1-3 芸術館
 - 1-4 西体育館
 - 1-5 総合活動館
 - 1-6 プール
- ② 附属京都小中学校 中・高等部
 - 2-1 本館
 - 2-2 北棟
 - 2-3 講堂、コンピューター教室
 - 2-4 東体育館
 - 2-5 東ランチルーム
 - 2-6 南棟



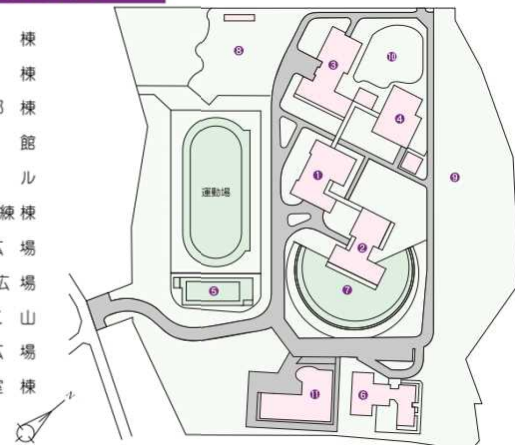
桃山地区附属学校

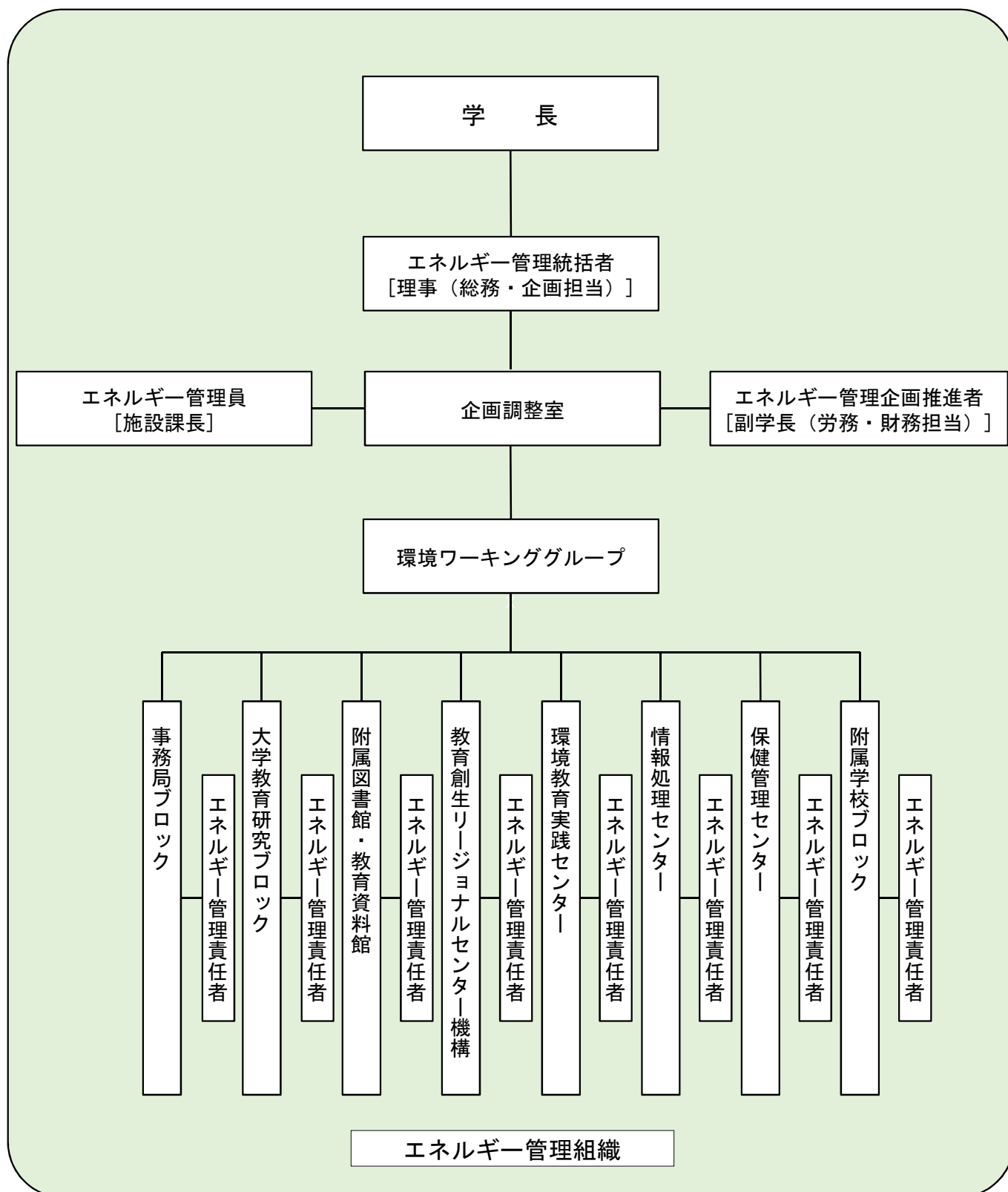
- ① 附属桃山小学校
 - 1-1 本館
 - 1-2 体育館
 - 1-3 プール
- ② 附属桃山中学校
 - 2-1 北校舎
 - 2-2 中学校舎
 - 2-3 南校舎
 - 2-4 体育館
 - 2-5 プール
- ③ 附属幼稚園
 - 3-1 管理室
 - 3-2 保育室
 - 3-3 遊戯室



附属特別支援学校

- ① 管理棟
- ② 小学部棟
- ③ 中高等部棟
- ④ 体育館
- ⑤ プール
- ⑥ 日常生活訓練棟
- ⑦ こども広場
- ⑧ キャンプ広場
- ⑨ たけのこ山
- ⑩ たから広場
- ⑪ 特別教室棟

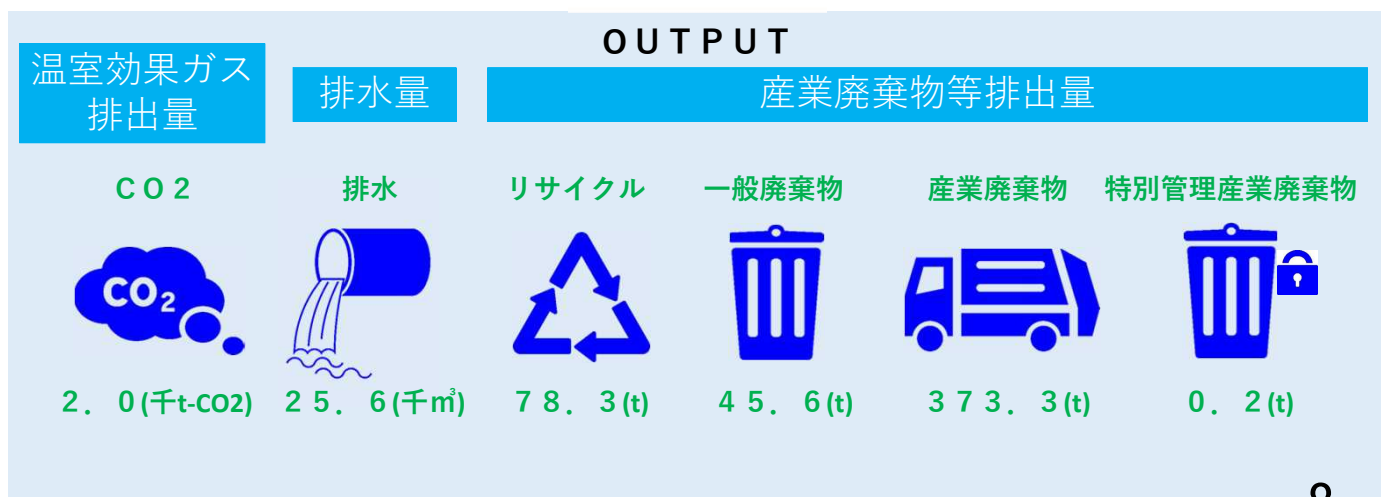
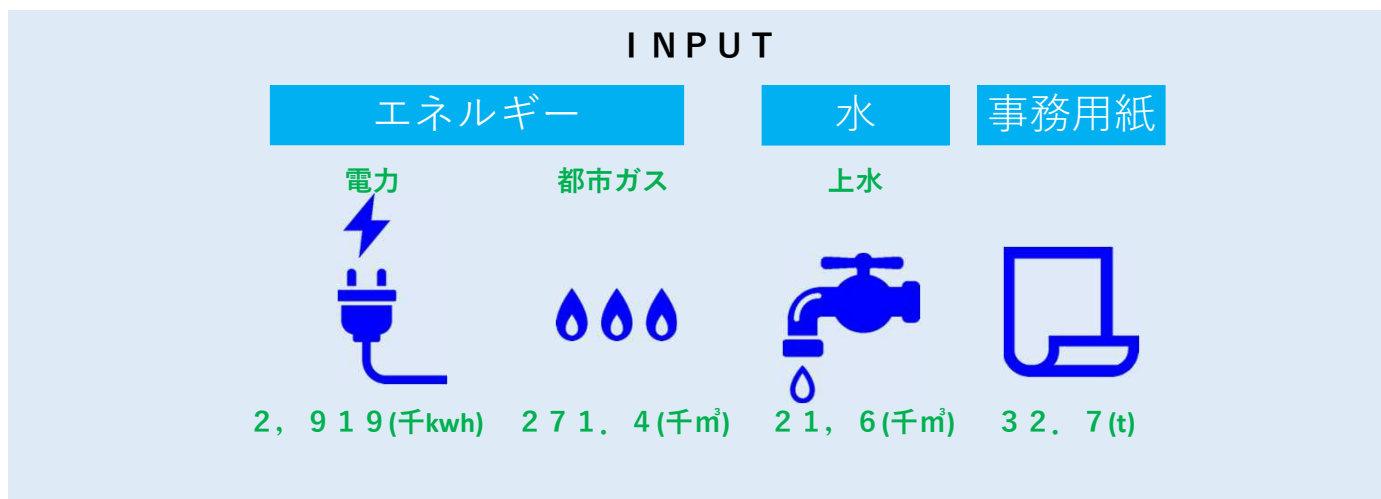




マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量（インプット）、その活動に伴って発生した環境負荷物質（アウトプット）を把握するマテリアルバランスの考え方に基づき、事業活動による成果と環境負荷を捉えます。

本学における2020年度のマテリアルバランスは下記の通りです。

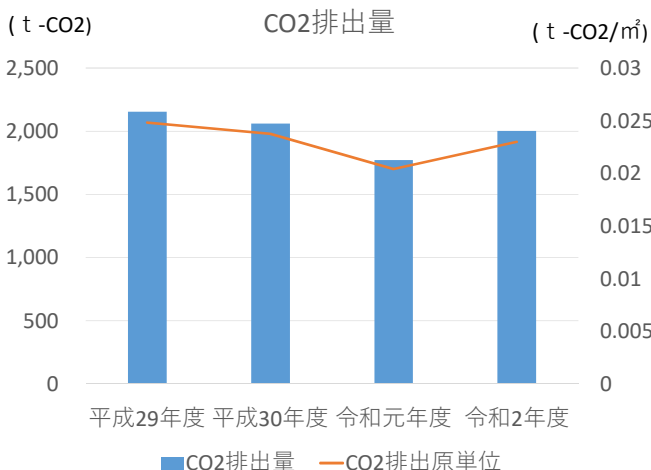
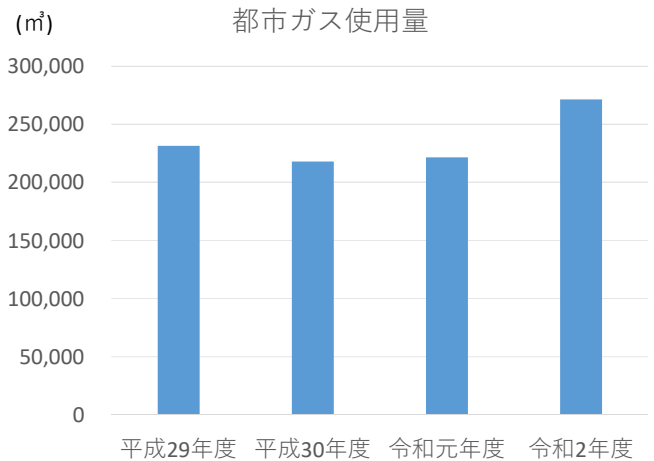
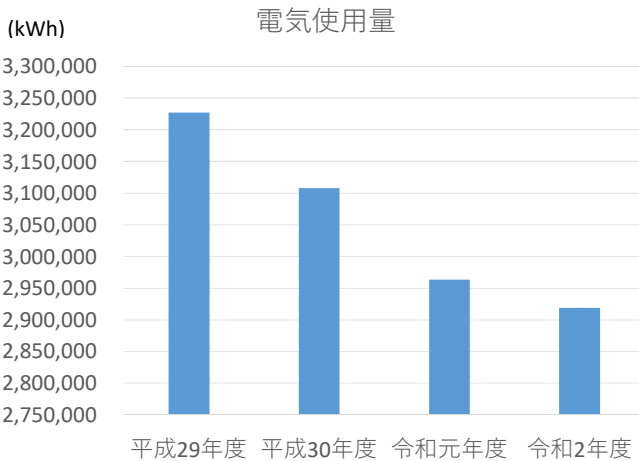
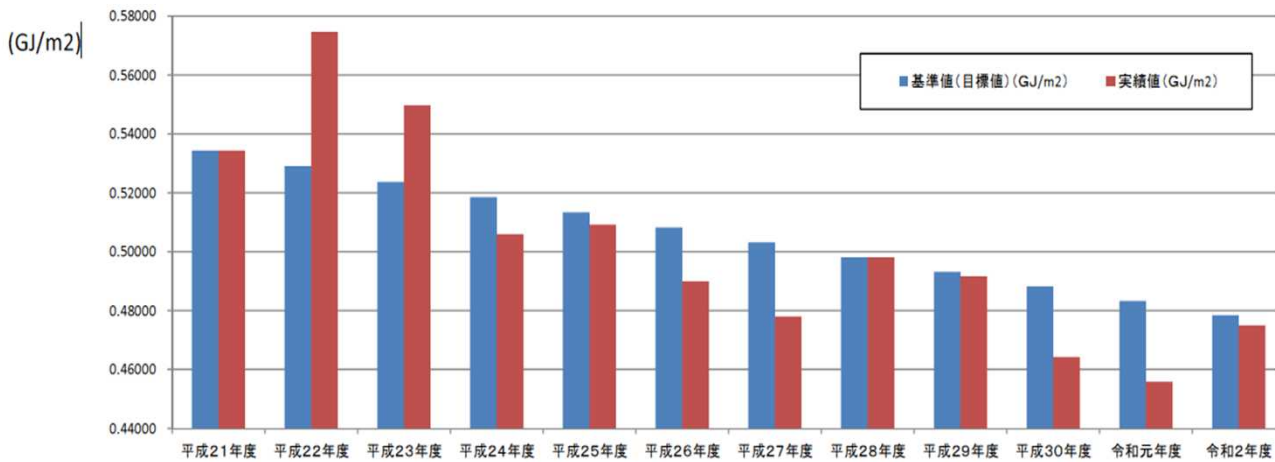


省エネルギー・温暖化防止

令和2年度の各キャンパス(藤森学舎、第二学舎地区、附属京都小中学校、桃山地区附属学校、附属特別支援学校)における一次エネルギー使用量原単位の推移は基準値である平成21年度比-11%を達成しました。

令和元年度から令和2年度にかけて都市ガスの使用量が増加しました。新型コロナウイルス感染症に係る対策のため、窓開け換気を行ったうえで空調を稼働させたことにより、空調用の都市ガスの使用量が増加したことが原因と考えられます。

■一次エネルギー使用量原単位の推移



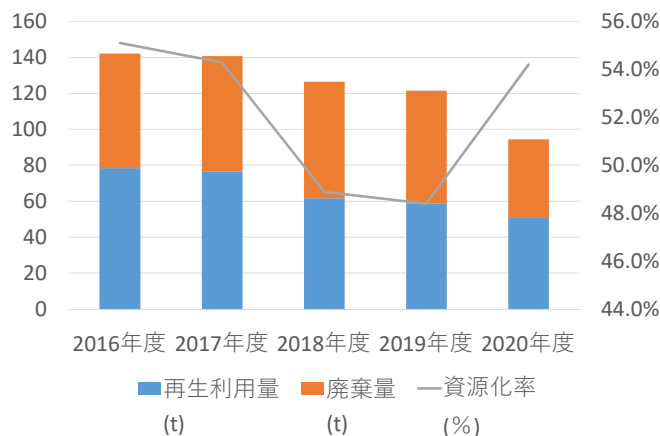
廃棄物

2016～2020年度の一般廃棄物排出量について下表に示します。2020年度の廃棄量は43.3tでした。2019年度と比較して廃棄量は19.5t減少し、資源化率は5.8%増加しました。

一般廃棄物排出量

	発生量 (t)	再生利用量 (t)	廃棄量 (t)	資源化率 (%)
2016年度	142.3	78.4	63.9	55.1%
2017年度	140.8	76.5	64.3	54.3%
2018年度	126.5	61.8	64.7	48.9%
2019年度	121.6	58.8	62.8	48.4%
2020年度	94.5	51.2	43.3	54.2%

一般廃棄物排出量

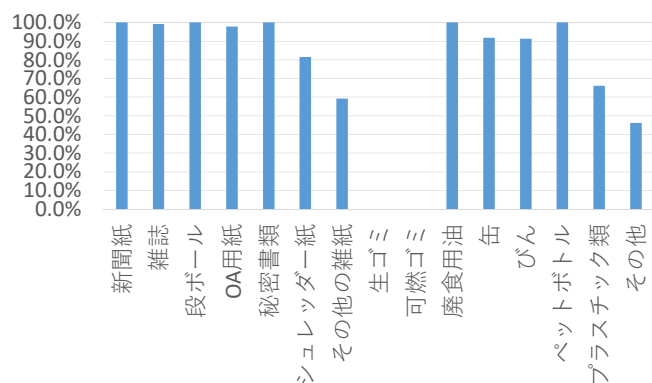


2020年度の廃棄物資源化率を下図に示します。今後も『国立大学法人京都教育大学における温室効果ガス排出抑制等のための実施計画』に基づき、ゴミの分別・資源化に努め、廃棄物の削減を行います。

2020年度 廃棄物種別資源化一覧表

	発生量 (t)	再生利用量 (t)	廃棄量 (t)	資源化率 (%)
新聞紙	2.1	2.1	0	100.0%
雑誌	12.9	12.8	0.1	99.2%
段ボール	7.2	7.2	0	100.0%
OA用紙	13.6	13.3	0.3	97.8%
秘密書類	8.2	8.2	0	100.0%
シュレッダー紙	3.8	3.1	0.7	81.6%
その他の雑紙	7.1	4.2	2.9	59.2%
生ゴミ	9.2	0	9.2	0.0%
可燃ゴミ	32.4	0	32.4	0.0%
廃食用油	1.8	1.8	0	100.0%
缶	3.7	3.4	0.3	91.9%
びん	2.3	2.1	0.2	91.3%
ペットボトル	8.8	8.8	0	100.0%
プラスチック類	16.2	10.7	5.5	66.0%
その他	1.3	0.6	0.7	46.2%
合計	130.6	78.3	52.3	60.0%

資源化率 (%)

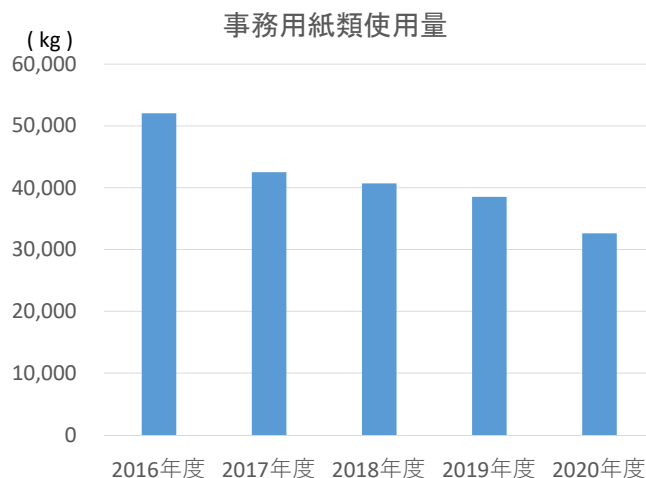


事務用紙類の使用量

2016～2020年度の事務用紙類に関する使用量推移を下表に示します。2020年度の使用量は32,659kgでした。

2019年度と比較して5,914kg(15.3%)減少しました。

引き続き『国立大学法人京都教育大学における温室効果ガス排出抑制等のための実施計画』に基づき、事務用紙類の削減に努めます。



全学の事務用紙類の使用量

品目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
	使用量 (kg)	使用量 (kg)	使用量 (kg)	使用量 (kg)	使用量 (kg)	前年度比増減率 (%)
事務用紙類使用量	52,061	42,527	40,718	38,573	32,659	-15.3%

PCB廃棄物

京都教育大学では『ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置方』に基づき、PCB廃棄物を適正に保管、点検、届出を行ってまいりました。令和元年度に高濃度及び低濃度PCB廃棄物の処分は全て完了しました。

グリーン購入・調達の実績状況

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」は国等の公的機関が率先して環境物品等（環境負荷低減に資する製品・サービス）の調達を推進するとともに、環境物品等に関する適切な情報提供を促進することにより、需要の転換を図り、持続的発展が可能な社会の構築を推進することを目指しています。

本学における2020年度のグリーン購入・調達の実績状況を右表に示します。引き続き環境にやさしい物品などの調達を積極的に行います。

2020年度グリーン購入・調達の実績状況

分野	品目	総調達量	特定調達品目調達率
紙類	コピー用紙	31,922 kg	97%
	トイレットペーパー	1,455 kg	100%
	その他	748 kg	100%
文具類	ボールペン	1,003 本	100%
	封筒（紙製）	6,230 枚	100%
	その他	19,521 個	100%
オフィス家具等	いす、机等	491 台	100%
OA機器	コピー機、プリンタ等	96 台	100%
証明	蛍光管	695 本	100%
インテリア類	カーテン	76 枚	100%
作業手袋		229 組	100%
その他繊維製品	ブルーシート	3 点	100%
役務	印刷	267 件	100%

環境配慮契約の状況

環境配慮契約法（国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律により、温室効果ガス等の削減に配慮した契約の推進を図るよう、努めなければなりません。本学においては契約を結ぶ際に、価格に加えて環境性能を含めて総合的に評価し、もっとも優れた製品やサービス等を提供する者と契約する仕組みを構築しており、環境に配慮した契約を積極的に進めております。

2021年度 地区ごとにおける電気の供給状況

	契約電力(kW)	年間予定使用電力量(kWh)	落札者
藤森学舎	700	1,828,900	九電みらいエナジー株式会社
附属桃山小学校	108	147,200	九電みらいエナジー株式会社
附属桃山中学校	86	149,900	九電みらいエナジー株式会社
附属京都小中学校（初等部）	162	174,400	九電みらいエナジー株式会社
附属京都小中学校（中・高等部）	139	166,400	九電みらいエナジー株式会社
第二学舎	244	340,600	九電みらいエナジー株式会社
附属特別支援学校	77	87,300	九電みらいエナジー株式会社

省エネルギー対策の実現可能な具体的計画

①地球温暖化防止に向けた啓発活動

節電計画（夏・冬）を学生、教職員に周知。（年2回）

キャンパス毎、建物毎のエネルギー使用量を分析し公表。（毎月）

②エネルギー使用量の目標値を設定

第4期中期目標期間における毎年度のエネルギー使用量の目標値を第3期中期目標期間中（平成28年度～令和2年度）の平均値（重油換算）以下と設定。

③省エネルギー効果を生み出す高効率の設備整備を推進

省エネルギー効果を生み出す高効率の設備（空調、照明等）を整備することにより削減されたエネルギー経費の100%を翌年度の整備費に上乗せすることで予算を確保し、更なる設備整備を実施。